

みんなで支えるBOUSAI教育！ 地域一体の共育社会の再建2015 最終報告



NPO法人
ふるさと未来創造堂

NPO法人ふるさと未来創造堂とは

- ・わくわくする「防災教育」をきっかけに、「地域一体の共育と教育社会の再建」を目指し、学校・地域・家庭をサポートするNPO法人
- ・活動拠点は、主に「新潟県全域」

・年間、40校前後の学校現場をサポート
・県市の教育行政や防災機関と連携
・教職員・PTA・地域・家庭向けの講座を県内各地で実施

私たちの思い

私たちは「防災教育」を通じて、以下の理念のもとに活動します。

- ・自然災害のみならず、自分の命は自分で守る・社会を生き抜く意識の定着
- ・命の尊さに向き合う心を育て、自ら考え行動する思考力・判断力・実践力を子どもたちに育む機会を様々な視点とアプローチで実践する
- ・地域を知り、かわり、貢献する活動機会から、全ての人が自分の存在価値を肯定し、認め合い、自らの居場所を見つけることのできる社会づくりに貢献する
- ・ふるさとをより深く知り、育った地域の誇りを胸に、自分の夢・未来を創造し実現する人づくりとそのサポートから共育社会の再生・創造を支える

NPO法人
ふるさと未来創造堂

みんなで支えるBOUSAI教育！ 地域一体の共育社会の再建2015

【活動の目的】

災害から「人命が守られる社会」を目指し、

- ① 学校現場における防災教育の実践にともなう、「教員の負担軽減」と「防災教育の定着」
- ② 防災教育実践のノウハウを学校と地域に蓄積させ、属人的では無く、持続可能な仕組みづくり
- ③ 持続可能な仕組みを支える、ノウハウを継承した地域に居住する“防災教育コーディネーター”の育成
かかわり合い、支え合う「人づくり」に取り組む。

NPO法人
ふるさと未来創造堂

みんなで支えるBOUSAI教育！ 地域一体の共育社会の再建2015

【活動の成果】

「防災」で学校・地域・家庭をつなぐ、

防災教育コーディネーターの養成プログラムツール案

- ・学校の「願い」を理解し、地域共通の「言語」に翻訳
- ・効果を高める「アイデア」と「ネットワーク」をフル活用
- 最初から学校現場・地域に飛びこみ活動するのは困難
- マニュアルや研修等の事例は少ない。

**様々な実践事例をもとに、コーディネート
をシミュレーションできる教材等の検討・作成**

予定でしたが・・・

みんなで支えるBOUSAI教育！ 地域一体の共育社会の再建2015

【活動の成果】

「防災」で学校・地域・家庭をつなぐ、

防災教育コーディネーターの養成プログラムツール案

まだまだ
研究が必要！



汎用性の高い事業成果を再検討

【今年度の活動の成果】

「防災」で学校・地域・家庭・企業等を実際につないだ
コーディネート事例と連携型の防災教育プログラム集

様々な実践事例をもとに、これから防災教育に
取り組む、関わる人への参考資料を作成。

最終的な今年の実践プラン(H27年3月～H28年2月)

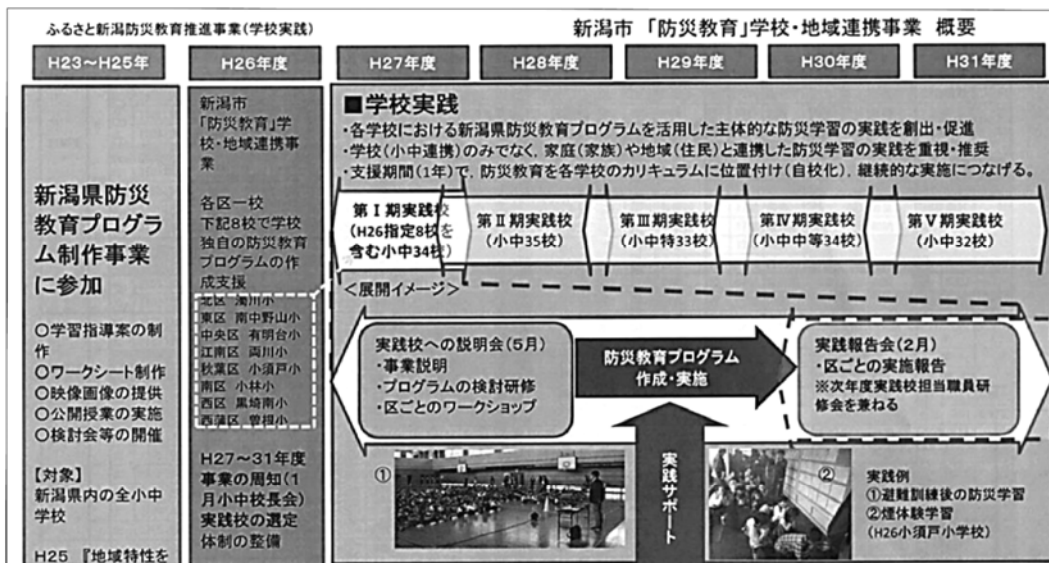
- ① 学校・地域の情報収集 (ヒアリング)
- ② モデル (サポート) 地区の選定・サポート
- ③ 専門家の選定・ヒアリング
- ④ 学校のサポーターになる可能性のある人材への研修プログラムの実施
- ⑤ 学校・家庭・地域・企業等を実際につないだアプローチと実践プログラム集の作成

NPO法人
ふるさと未来創造堂

実践報告(H27年3月～)

① 学校・地域の情報収集

⇒ 今年度行政等の委託事業でかかわる学校・地域へ (15校区)



【新潟市】
新潟県防災教育プログラムの自校化を開始。毎年30校前後が指定校になり、5年で全市の小・中学校及び特別支援学校(168校)が取り組む。

既存事業を活用！
学校・地域の負担を軽減し、相乗効果をねらう！

ふるさと未来創造堂

新潟県の防災教育に関する取組



新潟県防災教育プログラム

【平成26年2月発行】

新潟県中越大震災義援金の残余金で作成。
全県すべての市町村教育委員会・防災部局、
小・中・高等学校、社会教育施設、
防災関係団体等に無料配布

※事業概要については配布資料を参照

NPO法人
ふるさと未来創造堂

実践報告(H27年4月～6月)

①学校・地域の情報収集（打ち合わせ・ヒアリング抜粋）

学校側のニーズ

- ・学校の計画は既に決まっており、防災教育を組込む時間数の確保が難しい。
- ・地域と連携することへの不安及び負担感が大きい。地域連携が目的化すると辛い。
- ・県防災教育PGを活用し、まずは学校内でどのような力を育むのかを確立させ、地域や行政がサポートしてくれる体制が望ましい。
- ・既存の学校行事や教科に防災を組み込み、地域ぐるみで防災意識を高めたい。どのような可能性があるのか知りたい。
- ・講師や被災体験談を話せる人材を紹介してほしい。
- ・子どもが学んだことを生かせる活動計画例や体験活動メニューが知りたい。
- ・他校での実践事例を知りたい。
- ・活動内容や発達段階に応じた教材がほしい。
- ・避難訓練のマンネリ化を改善したい。等

地域側のニーズ

- ・地域で防災意識を高めるために、学校経由で子どもやその保護者に地域の防災訓練への参加を促してほしい。
- ・自主防災会のメンバーのほとんどは高齢者。若手の消防団は平日日中はみな仕事でいない。災害が起きたら、地元にいる若手は中学生のみ。中学生は地域の防災リーダーなので、地域の活動に学校側が理解を示し、関わってほしい。
- ・小・中学生が地域の防災を学べるような講座を実施してほしい。
- ・町内単位での行事が少なくなり、マンションも増えた。交流もなく、地域内の子どもの顔もわからない。安否確認できない。
- ・小・中学生を巻き込んだ防災活動をやりたい。何をやればよいかわからない。等

NPO法人
ふるさと未来創造堂

実践報告(H27年3月～5月)

①学校・地域の情報収集 (ニーズ整理とコーディネート例)

学校のニーズ

地域のニーズ

学校の避難訓練マンネリ化。訓練に向けて子どもの意識を高めたい。

地域に根差し、自分の命は自分で守る子どもを育てたい。

訓練をやる「意味」と防災に関する「言葉」を理解させる。

この地域で起こる災害は地震と洪水がメイン

子どもは地震も水害も未体験。恐怖のみではなく、リアリティのある体験活動がよい。

地域の人や地域資源を活用した「防災教育」の活動メニューを知りたい。

避難訓練を真剣にやってほしい。地域の防災訓練に保護者と参加してほしい。

災害ごとに避難行動は違う。覚えさせるために繰り返しやらせることが大切

低学年と高学年では理解力に差がある。同じ内容では理解できない。

子どもに災害を自分事としてとらえさせる活動とは？

災害はいつくるかわからないから普段から防災意識を高めなければいけない。

地域の訓練と同じように、防災の講話を聞かせればわかると思う。

実践報告(H27年3月～5月)

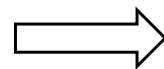
①学校・地域の情報収集 (ニーズ整理とコーディネート例)

訓練をやる「意味」と防災に関する「言葉」を理解させる。



学校の避難訓練マンネリ化。訓練に向けて子どもの意識を高めたい。

子どもたちは地震も水害も未体験恐怖ではなく、リアリティのある体験活動がよい



避難訓練後に中越地震当時の地域の写真等を見せて、体験談を聞かせる

まずは学校の避難訓練に保護者に参加

避難訓練で

する

学校も地域もwin×win!

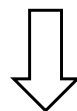
地域一体での安心・安全なまちづくりに!

学校と地域を防災で“つなぐ存在”は重要!

防災教育で
★知識を行動に結びつける危険回避能力と判断力を育む

災害ごとに避難行動は違う。

発生時の場所でも行動が変わる
なぜその行動をとるのか理解する



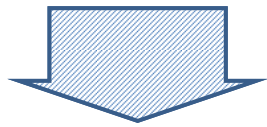
起震車で震度の違いを体験する

自分事としてとらえさせる

・地震発生時の危険を予測する視点を育む
・地域の方とまちあるき

防るを

- ・「調整役」が不在のため、各々のニーズが一方通行止まり。
- ・連携すれば相乗効果を発揮する機会も、実践に至らない現実。



- ・相談窓口があれば・・・
- ・教育と防災を結びつけられるコーディネーターがいれば・・・

防災教育の推進・定着に向けて

しかし、学校・地域をつなげる人材育成は難しい！
「学校の防災教育実践」をサポートできる人材を
「防災士」「社会教育主事・公民館主事・地域教育コーディネーター」等を対象に検証。

実践報告(H27年6月、7月)

②モデル（サポート）地区の選定・サポート

【対象者】

児童館、公民館職員（新潟市鳥屋野地区公民館）
 社会教育主事資格保有者

昨年は中止・・・

今年もリベンジ！

防災をテーマに

「子どもが自ら参加したい！」と思う企画を実施したい。

子どもが“わくわくする活動”に
 “防災を添える”プランを検討

家出、公民館での宿泊・きもだめし等
 冒険的なイベントとしての避難所体験

なんと、一週間で申込み定員超え！

平成27年度 鳥屋野地区公民館 主催事業

BOUSAI シナリオナイト in 公民館

鳥屋野地区公民館が一晩限りの〇〇館に大変身！
 こいつは～かなりヤバい体験になると思うニャ。
 ゲームではないニャ。エッ～！？マジっすか？？
 とリアルな連続。必要なのは、知恵と勇気と友情と
 あきらめない心ニャ～
 さて、君たちは協力しあって、はげましあって、無事に
 朝を迎えることができるかニャ～？？
 勇気ある挑戦者をまっけるニャ～。

◆日時：平成27年7月29日(水)16:00～
 7月30日(木)～10:00

◆会場：鳥屋野地区公民館 4階 大ホール ほか

◆対象：小学校5年生以上～中学3年生まで先着30人

◆受付：6月24日(水)9:00～7月10日(金)17:00まで
 電話(285-2371)か直接窓口

◆参加費：700円前後(受講決定時に連絡します)

◆持ち物：7月15日頃、持ち物などをお知らせします

◆講師：NPO法人ふるさと未来創造堂 中野雅嗣さん

◆問い合わせ：鳥屋野地区公民館 ☎285-2371
 中央区新和3-3-1

INFO

実践報告(H27年6月、7月)

中央区
避難生活を体験
 小中学生が防災合宿



防災について学ぶイベント「中央区の鳥居野地区公民館」が29、30の両日、新潟市で開かれた。市内の小中学生ら29日、新潟市中央区
 避難所と想定した公民館で、災害時の対応などを学ぶ小中学生ら29日、新潟市中央区

生28人が参加し、災害時の対処法や日頃の備えなどについて学んだ。イベントは小中学生を対象に、体験を通して防災について考えてもらおうと、鳥居野地区公民館が主催。県内各地で防災教育を行う長岡市のNPO法人「ふるさと未来創造堂」の中野雅嗣さん(35)がライブラインが止まった場合の調理法や、明かりを確保する方法を伝えた。同館をライブラインが止まった避難所と想定し、小中学生は水道水や電気が使えない状況での生活を実際に体験した。段階から災害時の備え

当日のアンケート集計結果より

1. 参加しようと思った理由は？ (n=29)
- ・友達に誘われて楽しそうだったから(複数回答あり)
 - ・夏休みヒマだから
 - ・心霊系だと思ったから(複数回答あり)
 - ・楽しそう、おもしろそうだったから(複数回答あり)
 - ・親が勝手に申し込んだから
 - ・お母さんが強制的に行けと言われたから(複数回答あり)
 - ・お母さんに防災のこと全く知らないから行けと言われた
 - ・公民館主事の話聞いていておもしろそうだったから
 - ・本当に災害がおこった時にいいかなと思ったから
 - ・去年から興味を持っていたから
 - ・防災のことを知りたかったし、いろんな人と交流するため
 - ・生活に役立てて災害の時に役立てたいから参加した
 - ・災害が起きたときに何をすればいいか知るため

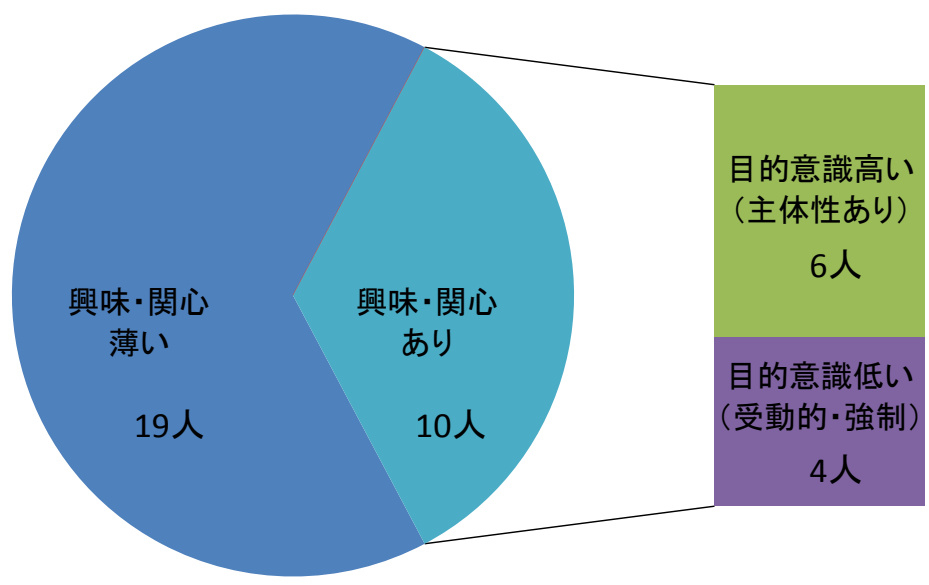
2015/08/04新潟日報

NPO法人
 ふるさと未来創造堂

実践報告(H27年6月、7月)

1. 参加時の防災への興味・関心 (n=29)

当日のアンケート集計結果より



3/2以上の参加者は、防災に対する興味・関心が低い。防災がメインなら“参加しない子どもの体験機会”に！

実践報告(H27年6月、7月)

2. イベントに参加した感想(n=29)

【大変面白かった】 12人

- ・みんなと協力して段ボールで壁を作れたり、色々な体験をして新しい友達ができた。
- ・沢山体験できたことを家族にも教えたい。
- ・みんなと協力できたし、いろいろなゲームで防災について知ることができた。
- ・ご飯づくりにぞうきんがけにきもだめし、仲間と協力して困難を乗り越えることができた。等

【面白かった】 11人

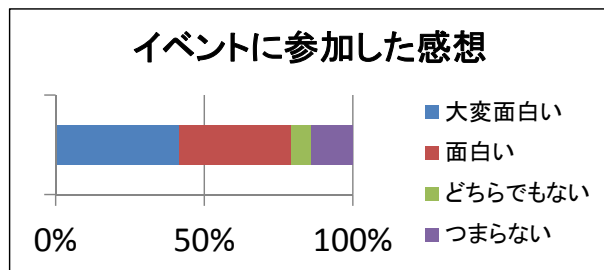
- ・いろんなイベントがおもしろかった。 ・工夫することで災害時に役立つことが分かった。
- ・おもしろかったけど米を炊くの失敗したらまずかった。
- ・大変だったのもあったけど、ツナ缶キャンドルが成功してうれしかった。 等

【どちらでもない】 2人

- ・楽しいところが多かったけど、悪いところもあった(夜うるさい人がいて、寝れなかった)
- ・楽しい所と楽しくないところがあった。

【つまらなかった】 4人

- ・お化け屋敷だと思っていたのに違ったから。
- ・ゲームが少なかった。
- ・なんか、準備しかなかった。 等



80%近くが満足する機会に！

“わくわく”が子どもの意識を変える！

実践報告(H27年6月～8月)

学校・地域・家庭をつなぐ実践

新潟市立笠木小学校×ふれあいスクール他

【対象者】地域教育コーディネーターと地域団体職員



【活動のねらい】

- ・地域の諸団体の協働により、地域の子どもと大人の顔の見える関係づくり。
- ・防災の視点による学校での宿泊体験活動を通して、子どもたちが地域の方々と一緒に、楽しみながら「防災」について学び、交流を深める。

学校・地域・家庭の共通課題である
「防災」をきっかけに、地域一体で
子どもを育てる環境づくりを！

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

毎年実施している学校宿泊を昨年から「防災」をテーマに実施【共催・協力団体等】西区地区公民館、西区社会福祉協議会、コミュニティ中野小屋、西区総務課、新潟西消防署、日本赤十字社新潟支部、PTA、笠木小OBの中高生、ふるさと未来創造堂

様々な団体の得意分野に「+防災」の活動を提案させ、活動を充実させる。

【第1部】遊んで学ぼう

- スタンプラリーで全コーナーを体験する。
- ボールプールで防災クイズ：西区社協
- 水消火器体験：西消防署
- 消防自動車見学
- 消防士体験
- 応急処置法体験：赤十字
- 防災「楽」習迷路：ふるさと未来創造堂
- 防災カフェ（給水コーナー）：西区総務課

【第2部】防災工作

- 大災害が起こると普段通りの生活ができなくなることを知り、身近なもの工夫から災害を乗り越える体験をする。
- ダンボールシェルターづくり、ツナ缶キャンドルづくり、マッチの使い方

【夕食タイム】

- 非常食体験
- コミュニティ中野小屋・西区役所総務課提供の「アルファ化米カレー」を全員で食べる。

【第3部】夜の学校探検

- グループで災害時に安全な場所を探すために夜の学校探検を行い、「学校のどこで寝るのか」について話し合っ

NPO法人
ふるさと未来創造堂

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

【第1部】遊んで学ぼう



NPO法人
ふるさと未来創造堂

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組



【第2部】
防災工作①
ダンボール
シェルターづくり



ふるさと未来創造堂

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

【第2部】
防災工作②
・ツナ缶でキャンドルづくり
・マッチすり体験



ふるさと未来創造堂

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

【夕食タイム】
アルファ化米の
カレーを全員で
食べる。



新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

【第3部】
夜の学校探検

寝ているときに地震
がおきても、自分の
命を守る場所を
探す。



かきしょうがっこう
笠木小学校のあんぜんなばしよをさがそう！

がっこうで、ねているときにしんがおきてあんぜんなばしよをグループできょうりよくしてさがそう！
しんがおきたときに、ガラスがわれたり、ものがおちてきたり、たおれてきたりするようなばしよはあぶないよね。
みつけた「あぶないばしよ」は、がっこうのちすにシールをはろう。
くらいはしよでは、つまづいたり、ころはないようにきをつけよう

キョージョ

<あぶないばしよ> ※きがついたばしよは、ちすにシールをはろう。

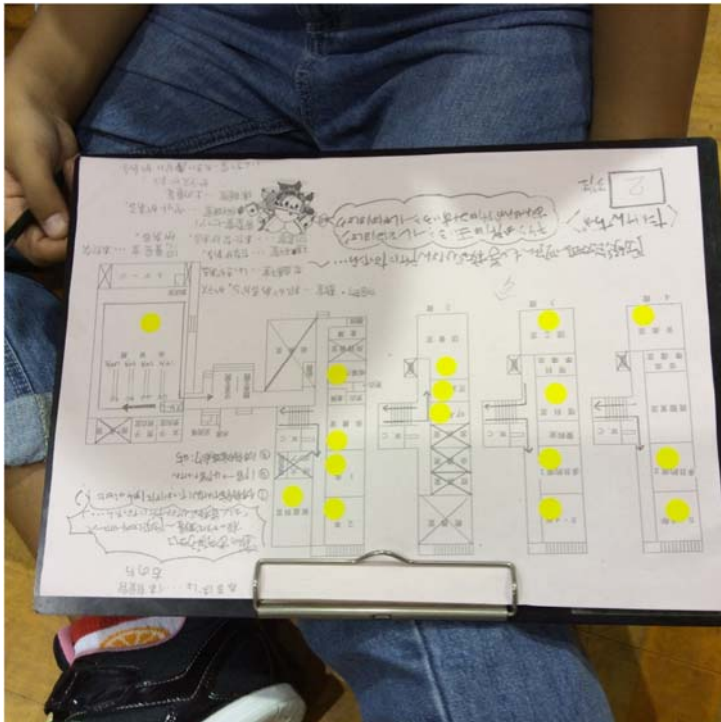
チェックポイント	こんなことがおきる
ガラスのまど	
だかいばしよにおいてある物	
ほんだなの本	おちてくる(われる)
けいこうとう(でんき)	
しょつぎだな	
けたばこ・ロッカー	
すいそう	
物がつみあげてある	たおれてくる
ピアノ	
つくえ	うごいてくる
せまいろうか	★とおれなくなるかも・・・

<くっついているとやくにたつばしよ> ※きがついたばしよは、ちすにかいておこう。

こうしゅうでんわ	かぞくにれんらくをとる
しょうかき、しょうかせん	かじになったときにやくにたつ

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

【第3部】夜の学校探検 寝ているときに地震がおきても、自分の命を守れる場所を探す。



NPO法人
ふるさと未来創造堂

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

わかったこと（子どもの反応）

※夜の学校探検のみ抜粋



- ・初めてわかったことは、いつも勉強している教室も、地震が起こると危険なのが、本だな、テレビ台、窓ガラスなどたくさんあるということです。（4年）
- ・学校は安全な場所より危険な場所が多いと思った。その中でも体育館が一番安全だとわかりました。（2年・5年）
- ・学校内もきけんなところが沢山あるけれど、家の中も危ない。安全な場所を探して、いざという時に、避難するところを決めておきたいです。（3年、6年）等

『危険を予測する視点』を身に付け、
日常生活に生かそうとする学習機会に。

新潟市立笠木小学校とふれあいスクールの取組

おうちや地域の方からの感想（家庭の声）

- ・とても良いイベントだと思った。楽しみながらもたくさんの事が学べたと思います。消防署エリアに興味津々でした。
- ・給水エリアもあり、高学年が時間を上手に使いながら、リーダーシップを発揮していました。低学年でも無理なく進められたと思います。
- ・様々な体験を通じて、大人も考えさせられた。日頃から災害にそなえることの大切さを再認識した。
- ・来年も楽しみにしています。 等



家庭・地域の防災意識向上の機会に！

ふるさと未来創造堂

実践報告(H28年1月)

②モデル（サポート）地区の選定・サポート

学校と企業をつなぐ実践

地震ザブトンを活用した防災教育プログラム

新潟市立升潟小学校
×
白山工業株式会社



学校でこれまで「防災」について学んできたことを生かし、
深めて、家庭での実践を促す体験学習プランを実践！

実践報告(H28年1月)

②モデル（サポート）地区の選定・サポート

学校と企業をつなぐ実践

新潟市立升瀧小学校
×
白山工業株式会社



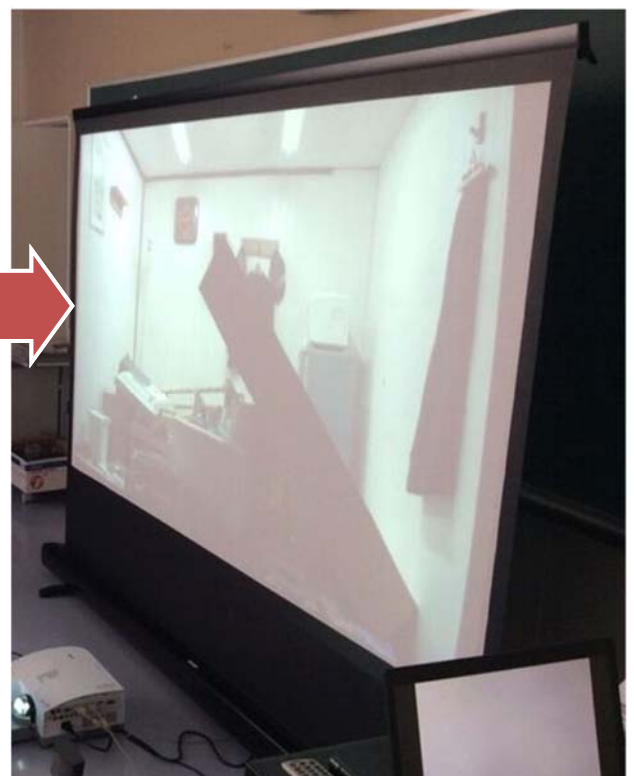
NPO法人
ふるさと未来創造堂

実践報告(H28年1月)

②モデル（サポート）地区の選定・サポート

学校と企業をつなぐ実践

新潟市立升瀧小学校
×白山工業株式会社



ふるさと未来創造堂

実践報告(H28年1月)

②モデル（サポート）地区の選定・サポート

学校と企業をつなぐ実践

新潟市立升潟小学校
×白山工業株式会社

H27 升 worksheet 01
 <小学校中・高学年：地震体験を通して、家庭内での危険箇所を確認し、事前にてできる対策を家族と考える>

年 組 番 名 前 ()

- 校舎内で地震が起こったときにそなえて、自分の命を守る“3つのない場所”を思い出して書きましょう。

- 地震がブトンによって、わかったことやかんそうを書きましょう。

- あなたは家の中にいます。家族といっしょに考えましょう。
 ①下の場所にいるときに大きなゆれの地震が起こると、どのようなきけんなことが起こりますか、よさそうして書きましょう。
 台 所

 ねる部屋

 ②地震から自分と家族の命を守る方法を話し合ひましょう。



ふるさと未来創造堂

実践報告(7~8月)

④防災教育サポーターに求められる役割の整理・検証から人材育成PGの検討



平成 27 年 8 月 20 日 NPO 法人ふるさと未来創造堂

学校防災教育の推進のために、私にできること

受験番号 _____ 氏名 _____

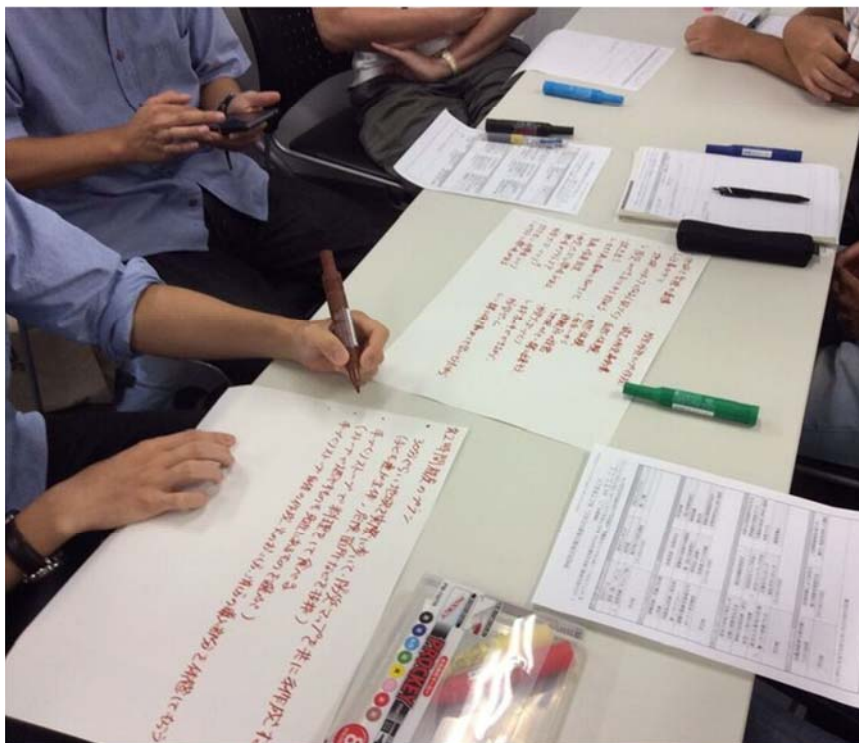
1. 以下の防災教育に関する活動の中から、自分にできることに「○」印、できそうなことに「△」をつけてください。いずれもメインの対象は、小学生もしくは中学生の子どもです。

①遊び・レジャーからの防災		
防災ゲーム	防災クッキング	防災グッズづくり
音楽（唄）・ダンス	紙芝居	劇・寸劇
自然体験（キャンプ等）	親子向けの防災講座	
その他	【その他の内容】	
②災害を想定した防災訓練や自発活動		
避難訓練・児童の引渡し訓練	応急担架・応急手当	防災訓練（図上訓練等含む）
初期消火訓練・放水訓練・バケツリレー	避難所の設置や体験訓練（図上訓練含む）	救助訓練 誓式決
避難行動要支援者のサポート・安否確認	炊き出し訓練・非常食づくり体験	家庭の家具固定方法や非常用持ち出し品の確認
その他	【その他の内容】	
③災害に備え地域づくり		
過去の地域で発生した災害と被害を伝える	被災体験談を話す	地域内の危険箇所を伝える危険箇所の標識づくり
学校の地域巡検（まち歩き）に同行指導	防災防災マップ作成・防災ハンドブック作成	災害時の地域と学校の連携体制づくり
過去の災害等の記録集・かべ新聞づくり	災害ボランティア 福祉ボランティア	義理金集め
その他	【その他の内容】	
④災害の疑似体験学習		
地震体験車や体験ハウスの活用	各種実験により自然災害の現象を再現する	災害関連施設の紹介や案内・施設を活用した講座
その他	【その他の内容】	

○いずれにも当てはまらないものがあれば記載

実践報告(7月から8月)

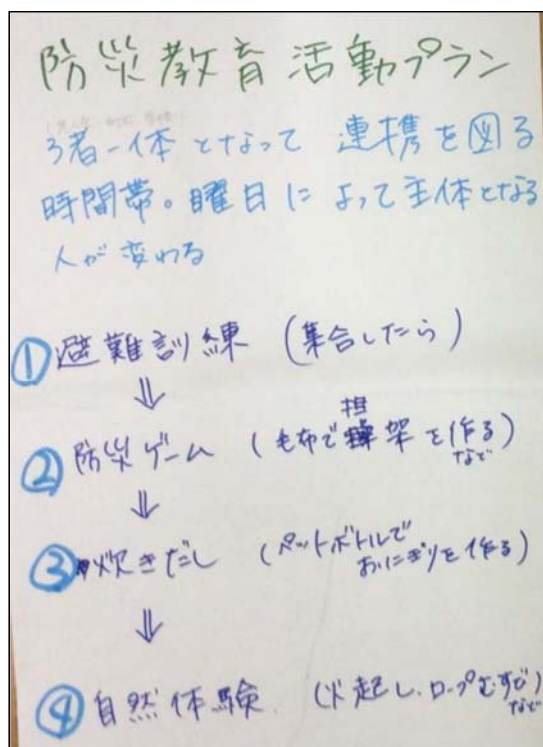
④人材育成PGの検討 (対象：防災士受験資格の取得希望者)



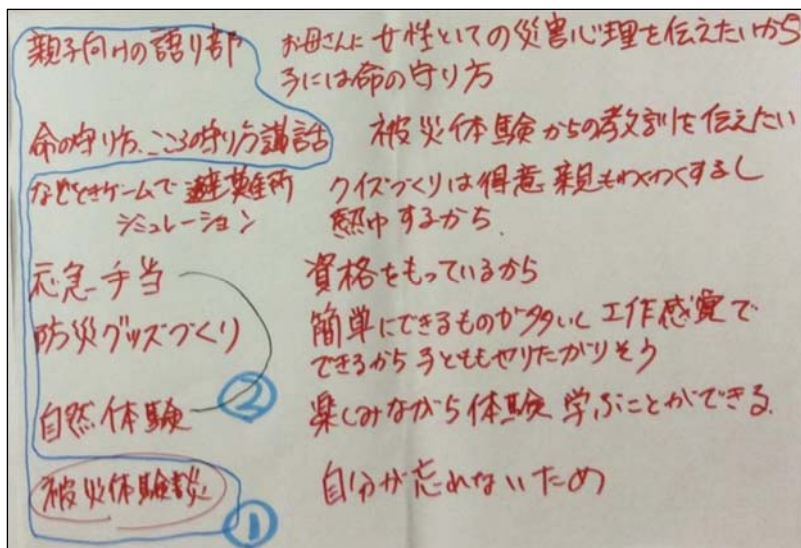
NPO法人
ふるさと未来創造堂

実践報告(7月から8月)

④人材育成PGの検討 (対象：防災士受験資格の取得希望者)



全10グループ中2グループがプログラム案を作成。他グループは個々でやりたいメニューはあるが、現段階ではプログラム案の作成はできなかった。



ふるさと未来創造堂

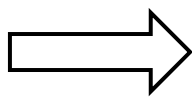
実践報告(7月から8月)

④人材育成PGの検討 (対象：防災士受験資格の取得希望者)

『今後、小・中学生を対象に“できるようにになりたい”Best5』

1. 防災グッズづくり
2. 自然体験活動 (キャンプ等)
3. 学校の地域巡検 (まち歩き) に同行指導
4. 炊き出し訓練・非常食づくりの体験
5. 家庭の家具固定・非常用持ち出し品の指導

体験活動メニューの指導や
地域活動時のサポーターは、
学校のニーズも高い。



教育分野の方、地域に精通している
方等、既にコーディネーターとしての
資質を持ち合わせている方も。
防災教育実践コースや教育ファシリ
テーターのような研修 (OJT等) で
経験を積むことで可能性も…

ふるさと木米創造堂

実践報告(H27年3月、7月、11月)

③専門家等へのヒアリング



H27/7/30

群馬大学大学院理工学府
広域首都圏防災研究センター 金井先生
三条市立第四中学校 教頭 五十嵐先生

H27/11/17

群馬大学大学院理工学府
広域首都圏防災研究センター 金井先生



実践知の整理と明文化は重要。

しかし、人材育成を先行して考えるケースは
往々にして失敗する。

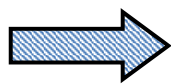
ツールが本質を無くし、独り歩きする可能性もある。

今、防災教育で学校現場で求められている存在は、
教員のやりたいを様々な形にアレンジし、サポートできる、
そしてなによりも**信頼関係**を築ける**パートナー**。

これは全国共通だと感じている。

『学校が求めている人』は？ (H26,27学校へのヒアリングより)

防災の専門的な知識を持つ講師？



子どもの「興味」「関心」「発達段階」を無視した、一般的かつ一方的な防災の講話や訓練では、ほぼ教育効果無し。。。

授業のねらいと異なる内容

知識・内容が多い。話が拡散する。

お話しにストーリー性がなくて、イメージできない

期待する子どもの変化が不明・曖昧

【子ども】
言葉がわからない
理解ができない
興味がわからない
「？」と「もやもや」



【学校】
子どもに身に付かない。
伝えてほしいことが違った。
⇒ **教育効果が低かった。**



NPO法人
ふるさと未来創造堂

2 : 8

防災の専門的な知識を持つ人

防災について学んだ知識

+

地域に詳しい人

地域の災害リスクや危険箇所等を知っている

地域の過去の被害状況や体験談を話せる

地域のネットワークあり

学校が求める人



・学校に寄り添い子どもの育てる思いを共感し合える人
・地域のヒト・コト・モノに精通し、防災にも詳しい人
・実行力のあるアイディアマン

教師・子どもを“わくわく”させる発想力と実行力

学校の理解者

学校の教育方針に理解を示し、サポートしてくれる

みんなで支えるBOUSAI教育！

地域一体の共育社会の再建2015の成果

【活動の目的から成果へ】

災害から「人命が守られる社会」を目指し、

第1弾として、今年度は

これから防災教育に取り組む、あるいは関わる人へ

「防災」で学校・地域・家庭・民間企業等をつないだ

“コーディネート事例”

“連携した、体験型防災教育プログラム”を

成果報告書にまとめました。

実践の参考になれば幸いです。

かかわり合い、支え合う「人づくり」に取り組む。

NPO法人
ふるさと未来創造堂